

令和2年度 林業成長産業化構想技術者育成研修 (ICT研修) 中部ブロック研修を実施

ブロック研修においては、ICT等の最新技術を活用し、効率的かつ効果的な路網の整備や、地域の特性と森林資源状況を考慮した森林整備計画、資源活用計画等により、地域構想を検討・作成するなど、林業の成長産業化に資する構想を作成できる技術力の養成を目的に、全国6ブロックで実施しました。

中部ブロックでは、11月10日から13日の4日間、岐阜県下呂市及び加茂郡七宗町（現地研修）において、富山県、岐阜県、愛知県、奈良県の職員4名、国有林職員2名の計6名が参加し実施しました。

研修は、約1,400haの民有林と国有林の演習地について、森づくり構想を念頭に近隣の林業事業体、木材加工・流通情報を踏まえた10年間の路網計画、搬出・販売計画を検討し発表するカリキュラムです。路網の検討にあたっては、路網設計支援ソフトを使用して路網整備の促進を図るもので、QGIS（※地理情報システムの閲覧、編集、分析機能を有するオープンソースソフトウェア・GISソフト）や、航空レーザー計測等で得られた森林現況や地形データ等を基に林道などの路網を机上で設計し、現地確認等により修正を行う内容となっています。

この研修により、木材生産基盤整備のための高度技術者等を育成し、生産性の向上、施業の低コスト化、資源の循環利用促進等により、林業の成長産業化を担う人材を育成します。

【1日目】 開講式の後、「森林資源把握・路網配置計画演習」では、QGISデータ及び図面で演習対象地の森林現況及び地形の把握を行い、森林及び路網の整備計画や地域特性に応じた森づくりの構想等について大局的に検討する視点を養うことを目標に取り組みました。



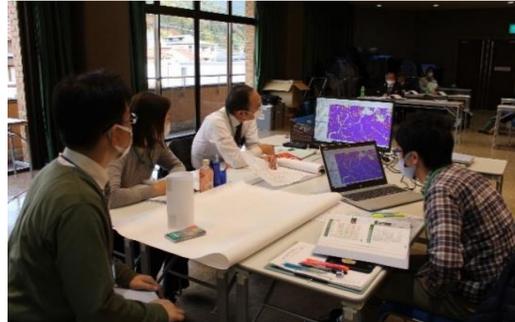
開校式挨拶（川戸森林整備部長）



録画による森づくり構想の講義（横井教授）



路網配置の検討（1班）



路網配置の検討（2班）

【2日目】演習地（七宗国有林）へ移動し、「地域特性に応じた森づくりの構想」、「森づくり検討／森林現況の把握・路網配置の調査」では、机上演習で検討した演習地（現地）を眺望して、資源量や地形・地質、周囲の土地利用を現地で確認することを通じて、路網計画や森林整備計画を再構築しました。



外部講師(森づくり構想現地実習)横井教授



森を見て今後の施業(構想)の検討



今後の森づくりについて意見交換



林野庁中村対策官からチャート(珪岩)の説明



ドローンによる現地の確認



遠望による現地の確認

【3日目】「林業成長産業化構想演習」では、机上演習と現地実習の結果を踏まえて、10年間程度の路網整備・森林整備の計画を含めた林業成長産業化に資する地域構想を作成。路網計画が市町村森林整備計画上のゾーニングや更新方法と整合が取れ、計画的な路網整備を行うための視点を養いました。



前日の現地調査を踏まえた路網の検討と林業成長産業化地域構想の作成

【4日目】「発表、ディスカッション、講評」」、閉校式
各班演習の発表とディスカッションを通じて、構想の実現に向けた開発構想と地域の利害関係者との合意形成に必要なプレゼンテーション・コミュニケーション能力の向上を図りました。



発表（1班）



発表（2班）



講評（アトバィザリーグループ 枚田委員）



閉校式（森林技術・支援センター 曾我所長）



集合写真

◎受講生へのアンケート結果（抜粋）

- 作業道や森林計画を立てる方法について他の方の意見を聞くことで勉強になった。
- 科学的知見に則った森林管理について改めて考えさせられた。
- 目標をまず決め、それに向けて施業を行っていくことの重要性を学んだ。
- 収穫予想表や林齢、樹勢などを見ることで目標林型を考えられることが分かった。
- 現地でジオグラフィカを使って路網の存在、配置について考えることができた。
- 現地状況やデータから構想を討論したが、一つの形にすることが大変難しかった。
- QGISを利用した計画作成から構想発表まで一連の流れを学ぶことができた。
- 質問や困っている時にも丁寧に教えていただき助かった。
- 森づくり構想と成長産業化構想の作成は、他の方々の考え方も聞くことができ様々な発見があった。
- 時間の割に作業量が多く、構想を考える時間が足らなかった。
- 地域特性に応じた森づくりの構想や、森づくり検討が印象に残った。